

むらかみ

元気マガジン

Vol.14

感謝!! 苦節十年 念願のわらび
 園開園にあたり 大切にしよう。事。
 べいも笑顔で馬鹿話、つらい
 山仕事も活カに変える。
 一、難しい話規則は作らず仲間の
 意見と尊重し 皆で考え活動に
 いそむ。
 一、各々様々な技術を持っており更
 に作業を進め反省会で心交を深める。
 最高の仲間達とわらび園市道沿
 線の整備・高坪山周辺で活動して
 いる人達と協働で地域活性化を進め
 て行きたい。
 関係者・地域の皆様へ感謝です!
 荒島わらび山開発クラブ 小島修

CONTENTS

【特集】

地域まちづくり組織
活動自慢大会

2 塩野町地域まちづくり協議会

秋の大収穫祭!

3 館腰地域まちづくり協議会

たてこし軽トラ市

村上地域まちづくり協議会

花の一輪挿し運動

4 山辺里地区まちづくり協議会

大好き・さべり

上海府地区町づくり推進委員会

タコだまし漁体験

5 あらかわ地区まちづくり協議会

あらかわ未来ファンド助成

6 雑感

基本的に

田舎は強いのである

7 面白い人・取り組み紹介

上海府地区

町づくり推進委員会

会長片野高義さんに直撃!

8 地域団体紹介

荒島わらび山開発クラブ

特集

お互いの活動から学びあう！

地域まちづくり組織

活動自慢大会

平成 24 年 4 月に村上市内 17 地区で設立された地域まちづくり組織(まちづくり協議会)は、活動開始から丸 4 年が経過し、様々な取り組みが展開され、着実に成果をあげつつあります。各協議会の取り組みは、広報紙やインターネットによる情報発信は行われていますが、協議会の関係者が一堂に会して活動紹介・情報共有する場は、これまでほとんどありませんでした。

「各協議会が何を行っているのかを知りたい。」「お互いに顔を合わせて情報・意見交換がしたい。」

こんな声に応え、平成 28 年 8 月 11 日に活動発表会(主催：NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンター／後援：村上市)が開催されました。今回は 6 つの組織が、自慢の取り組みを 1 つに絞って発表。会場からは数多くの質問・意見が寄せられ、多に盛り上がりました。

会場からの質問とその回答

- Q 参加費収入はどのくらいあり、その用途は？
- A 参加費収入は 60 万円前後。メニューづくり等に充てています。
- Q メニューの掘り起こしはどうしているの？
- A 最初は大海 11 品からスタート。その都度みんな考え、相談しています。
- Q 郷土料理の伝承はどうやっているの？
- A 写真を撮り、作り方も記録しています。いずれ本にしたいと思っています。

「地域内外の交流が盛んになり、コミュニケーションのとれた賑わいが生まれている」ことを目指して、農産物の P R と販売を行う「めぐり部会」と、住民交流イベントや食文化伝承に取り組み「ふれあい伝承部会」が合同で実施しているのが『秋の大収穫祭』です。

大海、牛煮込み汁、新米おにぎりなど、塩野町地域の 7 集落それぞれから 1 品ずつ、地域の食材を使った地元料理を提供し、その数なんと約 400 食。その他にも、農作物生産者による直売のコーナーや小学生が栽培した米の販売、地元

業者の実演・展示コーナーを設置するなど、地産地消を促進する仕掛けが施されています。

たくさんの人を巻き込んで開催することで、集落を越えた地域の親睦の場となり、継続を望む声が多く寄せられている他、地域外からの参加希望者も増加しています。

地域の食文化を後世に伝え、郷土料理を用いて地域を賑やかにし、子どもから大人まで参加した皆が地域のよさを再認識することができる秋の大イベントです。



7 集落の食と住民が大集合
食文化の継承×地産地消×集落を超えた交流を実現！



塩野町地域まちづくり協議会
秋の大収穫祭！



会場からの質問とその回答

- Q 他地域のイベントにも出張してもらおうことは可能？
- A 今後、考えていきたいと思います。他地区からの出店もOKです。
- Q 出店料はいくら？
- A 1店舗 500円です。
- Q 出店者の募集はどのように行っているのですか？
- A 朝日と村上是新聞・チラシで、その他についてはFacebookで広報しています。
- Q 出店者減少への対策は？
- A 出店者の都合に合わせるようにしているが、他のイベントと重なり難しい。

この地域の先駆けとなり、平成24年度からこれまで計12回開催してきた「軽トラ市」。地域資源を活用して新たな産業を育てようと、農業が盛んで山の幸が豊富な特色を活かして、特産品販売の仕組みを作れないかと検討。地域で課題となっていた農業生産者の販路拡大と、生産者と消費者の交流促進を目指しての挑戦です。

農業生産者なら誰しもが持っている軽トラの荷台を活用して農産物を販売し、準備や片付けも簡単！対面販売で生産者と消費者の距離を近づけ、単なる商品だけで

なく、安心安全も提供することができています。また、農産物直売だけでなく、抽選会や餅つき、なめこ汁ふるまいなどのイベントでお客様を呼び込む工夫を凝らしながら、地域に賑わいをもたらしています。

生産者の高齢化や担い手の減少により、出店者が減少傾向にあるという課題も、他地域への出展やイベントへの参加など、出店者により利益が出るような取り組みをしていこうと、活動は進化し続けています。



注目
まちづくり協議会の中でも先駆けて軽トラ市を実施！
5年間やってきた実績・経験・課題とは？



たにしん軽トラ市

館腰地域まちづくり協議会



会場からの質問とその回答

- Q 花の仕入れはどうしているの？
- A 年に2回開催で年間80万円（部会予算の1/3）の経費を掛けています。組み花を4店舗にお願いし、1セット380円で仕入れています。
- Q 参加者が増えている秘訣は？広めるための工夫は何かある？
- A 商店街や組合などへの協力依頼から始まり、年々増やしていきました。基本的には口コミで広がっています。毎回、アンケートを行い、改善点を見つけ、それを実行しています。

村上の街中を通ると、軒先に統一感のある竹の器が飾られ、季節を感じられる花々が城下町の街並みを彩り豊かにしています。環境整備部会が中心となり「花と緑の潤いあるまちづくり」をテーマにして取り組んでいる「花の一輪挿し運動」は、春と秋の年2回、人形さま巡り（3月1日～3月31日）と屏風まつり（9月15日～10月15日）に合わせて開催されています。

この活動は様々な要素が絡み合っている、一石二鳥どころか一石五鳥！竹林から調達することで竹林整備

ができ、花器の製作講習会を開催して「竹取の翁」と呼ばれる職人を養成。地域の男性陣が活躍する場となっています。ボランティアで関わる地域の協力者を少しずつ増やしながら、皆でできることを行うという取り組みが、結果的に街の景観を良くし、地域の一体感が生まれ、観光客の方に「また村上来たい！」と思ってもらえるおもてなしにつながっています。



注目
竹の花器×軒先提供200軒！
来街者へのおもてなしと景観美化を一挙実現



花の一輪挿し運動

村上地域まちづくり協議会





山辺里地区まちづくり協議会 大好き・さべり



住民参加でイメージソングを作成
これに振り付けして、高齢者の健康増進体操に!



納涼祭や収穫祭、敬老会など、山辺里地区で開催される行事では、園児からお年寄りまでみんなが歌える山辺里のイメージソング「大好き・さべり」が必ず流れます。まちづくり協議会の活動として、誰もが参加できる事、記憶に残る事、後世に伝えられる事をしたいという声から、オリジナル曲の制作に取り組むことになりました。

も合わさり、歌って踊れる曲が生まれました。「大好き・さべり」は山辺里地区の四季折々の情景と、山辺里が大好きという住んでいる人々の思いが込められた歌詞が印象的で、今では山辺里に暮らす皆が知っている曲となっています。

山辺里地区は全20集落からなる大きな地区ですが、この「大好き・さべり」が住民同士の絆を強くし、「歌でつながるさべり」を合い言葉に、地域が一体となる取り組みを推進しています。

会場からの質問とその回答

- Q CD化の予定は?
- A DVDを発売中です。まち協で500円で販売しています。すこやか体操の映像も入っています。
- Q 取り組みが長続きしている秘訣は?
- A 実際に歌う機会をつくることです。ただ、中学生の参加が課題ですね。
- Q 活性化につながっている? 今後の予定は?
- A 活性化できています。いろいろな行事や学校の中でとにかく歌っていきます。



上海府地区町づくり推進委員会 タコだまし漁体験



伝統漁法「タコだまし漁体験」を
小学校の総合学習と連携して子どもたちに伝承



身近に海があるという環境、そして伝統漁を受け継ぐ人という財産を活かし、上海府ならではの活動として注目されている「タコだまし漁体験」。子どもたちが海で遊ぶことは少なく、タコ獲りも魚釣り同様リール付きのサオを使って行われるという時代の変化に、昔ながらの伝統漁法「タコだまし漁」が消えてしまうのではないかと危機感を持ち、地域の伝統文化を地元の子どもたちに伝えていこうという想いではじまった取り組みです。

行事など小学校と連携した取り

組みがすでにあつたことから、学校の授業へ体験を組み込む、PTAの行事にプログラムとして加えるなど、既存の仕組みの中に伝統文化継承の要素を入れ込んでいきます。子どもたちの指導には地域の方がボランティアで関わり、子どもたちだけでなく大人も地域の魅力を再確認することができる機会となりました。

活動発表の際に行われたタコだまし漁の実演では、会場内から大きな歓声と拍手が上がり、注目度の高さを感じました。

会場からの質問とその回答

- Q タコ汁を食べたい!
- A 特に提供しているところはありません。各家庭の食卓にはよく並びますが・・・。
- Q レシピはどこにあるの?
- A 推進委員会の事務局にあります。お問い合わせください。
- Q 漁の継承者数は?
- A 早川に3人、野瀧に3人、吉浦に2人います。
- Q 小学校が統合しても続けられますか?
- A やっていきたいと思います。瀬波小学校でもやってみたいですね。



あらかわ地区まちづくり協議会

あらかわ未来ファンド助成



公募型助成事業「あらかわ未来ファンド助成事業」を
独自に実施。ここから新たな事業が育っています。

協議会では「絆と自然と共に生きるまちあらかわ」というまちづくりの理念をもとに、自然・伝統文化・商業活性化・住みよいまちづくりなどを具体化した7つの将来像を掲げ、その実現のために各部会がそれぞれの活動に取り組んでいます。

育成部では、あらかわ未来ファンド助成事業を実施。荒川地区において、自らの発想で、自主的にまちづくりに取り組む団体や個人に対して助成を行うことで、多くの団体、個人に将来像の実現へ向

会場からの質問とその回答

Q ファンドの資金源は？助成の仕組みは？

A まちづくり協議会の予算から捻出。年間の助成総額は200万円。1団体の上限は50万円。審査は外部審査員に任せています。

Q ワラビ園の収益・採算は？

A 現在のメンバーが15名。平成28年度は、ワラビ園の入場料は1,000円。来場者数は102名だった。設備等への支出がかさみ、採算が取れるところまではまだっていない。

かつて活動を広げてほしいと、様々な活動に助成が行われています。若者に出会いの場を提供する「あらコン」や、カーリンコンという軽スポーツでの高齢者の健康づくり、今号裏表紙の「荒島わらび山開発クラブ」でのわらび園運営など、助成事業を受けて、活発な活動が育まれました。

この助成事業をきっかけにして、新たな、そして多様な事業が立ち上がり、あらかわ地区を盛り上げる起爆剤となつてほしいという願いが込められています。

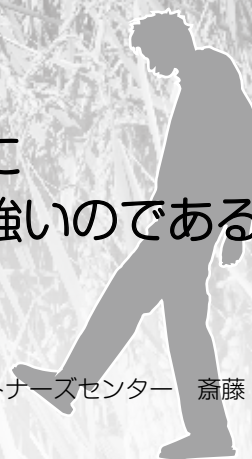
参加者からの感想・意見

- 他地域の活動内容が直接聞けたことに満足です。
- とても楽しかったです。皆さんの地域に対する熱意がとても良く感じられる時間でした。
- 他団体のユーモアのある発表、また我々の活動の参考になる取り組みが聞かれて良かった。
- それぞれの地域の特色を活かした取り組みで非常に良かった。みんないきいきしている。これってとても大切なことですよ。
- 時間通りに始まって、発表も時間通りに聞いていてもメリハリがあつて良い。
- 自分たちが真剣に取り組んでいる活動を市内全域の方々に聞いてもらえることがとても嬉しい。
- 100名以上の方の前で発表できてとても良かった。
- 発表内容の検討を通して改めて事業のふりかえりができた。
- 発表時間が短かった。
- 発表した協議会の他にも全地域でどのような取り組みをしているか聞きたかった。
- 各地域での課題や今後の取り組みに向けたアドバイスがあると良いと思いました。
- ぜひ継続してください。一番人氣のものは現地向けたいです。(現場で自慢大会も！)
- 次回は発表側で参加したい。
- もっと多くの委員の方を誘いたいので会場を広くしていただいた方が良いかと思えます。また開催してください！
- このような会は大変良いと思います。できるだけ多くの協議会のメンバーに参加してもらいたいと思いますので、早めに日程をおろしてほしいです。



基本的に 田舎は強いのである

都岐沙羅 パートナーズセンター 齋藤 主税



民間研究機関・日本創成会議が平成26年に発表した内容が、社会に大きな衝撃を与えた。消滅可能性都市。全国の市町村のうち、約半数が「消滅する可能性がある」という内容である。具体的な市町村名まで公開され、村上市はこの中に名を連ねていた。

人口減少・少子高齢化は、地方に限った話ではない。日本全体で考えなくてはならない大きな課題である。都市部に比べ、地方部ではそれが急激に進んでおり、これへの対応は急務だ。ただし、右肩上がりの時代だったこれまでと、縮小社会が避けられないこれからの時代では、自ずと地域づくりのあり方も変えていかななくてはならない。これまでの延長線上で物事を考えていてはダメ。でもどうすればいいのか？そんな思いから、

あちらこちらにアンテナを張って情報収集をしていた時に出会ったのが、「小規模多機能自治」という考え方があった。

「自分たちの地域は自分たちでつくる」という基本姿勢のもと、地域・住民でできることを増やす。地域は自らで治める（＝自治）。行政サービスの受給者（消費者）ではなく、社会の変化に対応した住民自治。住民自治の進化・再構築こそが、これからの時代、地方が生き抜いていくために不可欠だと直感的に思った。縮小社会では、これまで集落単独でできていたことが、様々な理由でできなくなっていく。だからこそ、複数の集落・地区がまとまり、自分たちで「何が問題なのか？」「問題点を解決するために何をすべきか」を考え、実行することが大切になる。村上市にはこれに該当する仕組みがある。地域まちづくり組織（＝まちづくり協議会）である。

「市民協働のまちづくり」として、平成24年に市内17地域で立ち上がった地域まちづくり組織。集落を超えた連携・協働による地域づくりの取り組みに、最初は戸惑いつつも試行錯誤を重ね、今では各地で着実に成果が挙がっている。しかし、このままでは、行き詰まるかもしれないという思いも正直感じていた。

進化論を唱えたダーウィンは、「こ

の世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。そうでもない。それは、変化に対応できる生き物だ」という考えを示したと言われている。そう、これからの時代を生き抜くためのポイントには「変化への対応」である。

私が村上の地域づくりに携わるようになってから17年。これまでに何度も、この地域の底力を見てきた。暮らしの中で培われた知恵や技術。互助・共助。地域の連帯感。伝統文化。新しい価値を生み出していくアイディアと実行力。これらを総動員すれば、今後迎える厳しい局面も乗り越えられるのではないかと。樂觀視はしていないが、意外に不安視もしていない。

明治大学の小田切徳美教授は、著書「農山村は消滅しない」の中で、次のように述べている。

農山村が空洞化していくプロセスは、人の空洞化、土地の空洞化、むらの空洞化と段階的に、折り重なるように進んでいくが、人の空洞化、土地の空洞化が進行しても、むらの空洞化に耐えて、何とか集落を維持できているところが少なくない。農山村の集落は基本的に強靱で、強い持続性を持っている。

そう、基本的に田舎は強いのである。



上海府地区町づくり推進委員会 片野高義さんに直撃！

かたの たかよし

片野 高義さん 村上市吉浦集落

昭和23年生まれ、68歳。

高校卒業後、遠洋航海の船員及び航海士として32年間海外を回った後、大阪ガス（営業）に勤務。56歳で退職し、生まれ育った吉浦集落へ戻る。区の役員や消防団員などを務め、平成24年吉浦区長になり、平成25年度からは上海府地区町づくり推進委員会の会長として、上海府地区をPRし、子どもたちを応援する活動に力を入れている。

面白い人・取り組み紹介

上海府地区町づくり推進委員会は、昭和60年に設立され、上海府にある8つの集落（岩ヶ崎・大月・野潟・間島・柏尾・吉浦・早川・馬下）のまちづくりを推進するために活動しています。海あり、山あり、自然豊かで、地域全体の絆が強く、老若男女問わず、みんなの意見を取り入れて活動を行うことで、長年活発な取り組みが継続されています。

今、上海府地区に暮らす15歳以下の子どもの数は58人。高齢化率は50%を超えている現状もあり、子どもたちを地域で見守り、地域の皆で育てていきたいと、様々な団体と協力し合って活動しています。

前述の自慢大会で実演付きの発表をしてくださったのは「タコだまし漁」という伝統漁法を継承するために取り組む、子ども向けの体験活動です。タコだまし漁は10月頃、浅瀬にぐるぐるタコを捕るための漁法で、2本の竿を駆使して、岩場からタコを誘い出し捕まえます。昨年は上海府小学校3・4年生を対象として、タコだまし漁に使う道具をつくることから漁を体験し、早川集落のタコ汁という郷土料理を食べるプログラムを開



1円玉募金の成果はオリジナル図書カードに！



海幸フェスタではお母さん達が活躍！

催。今年は小学校PTAと連携して、バーベキュー大会を行う際にタコだまし漁体験を行い、子どもたち、そして親世代の方々に伝統文化を継承しています。

今年で3回目を迎えた「海幸フェスタ」は、上海府地区を地域外へPRするために、地区の自慢である海の幸を提供し、夏の時期、上海府地区を訪れる海水浴客の人たちにもっと上海府を宣伝したいという思いで開催しています。山形や福島など県外からのお客様も多く、ふるまいのサザエを喜んでくださる他、町づくり推進委員に限らずに、地域住民の方がスタッフとして関わってくださる機会にもなっています。

また、上海府で古い歴史を持つ取り組み「1円玉募金」は、ビンール袋いっぱい1円玉を寄付してくださる方がいるほど、毎年継続

隠れるタコをおびき出す子どもたち



捕まえたタコと一緒に記念写真



して熱心な活動が行われており、多くの寄付が集まります。集まった募金の使い道は会議で検討し、小学校の新生へ配布する防犯ブザーや、卒業生へ送るオリジナル図書カードなど、子どもたちのために活用されています。

その他の地域活動も子どもたちが加わるからおもしろくなる、子どもたちの数が少ない分、子どもたちのことをPTAだけに任せるのではなく、もっと協働してというと考え、運動会・文化祭・駅伝大会など地域と小学校が連携しながら活動に取り組んでいます。

地域あつてのまちづくり。課題を抱えながらも、お互い様の思いを持ち、協力し合って行う活動は、多世代の笑顔と活気に溢れています。

地域団体紹介

荒島わらび山 開発クラブ

住 所：村上市荒島 9 1 2
TEL：0254-62-4007
会 長：大沼 純一



鮮やかなレンギョウの花が咲く市道

- 活動分野：自然・交流
- 活動地域：村上市荒川地区

荒島わらび山開発クラブは、荒川地区荒島出身の人を中心とした有志15名ほどで活動しています。昔、養蚕が盛んな時期に桑畑だった場所が荒れたまま放置されており、その場所を荒川町民憩いの遊び場になればという想いで整備に取り組んだのが活動のはじまりです。徐々に仲間を増やしながら、活動の輪を広げられました。

平成25年度から27年度までは、あらかわ地区まちづくり協議会で行っている「あらかわ未来ファンD」（荒川地区において自らの発想で自主的にまちづくりに取り組む団体や個人に対しての助成事業）を受けて、わらび園の整備と沿線の市道周辺の景観を良くするために活動しています。

わらび園の広さは約5ヘクタール。身長よりも高い藪のようになっている草むらを刈り、木を倒し、整地をしながら面積を拡大してきました。春先、雪が消える頃には山焼きをして、わらびが出やすい環境を作ります。他のわらびの産地よりも1ヶ月ほど早く、5月の連休頃になるとわらびが出始め、初物を求めてわらびファンが



やわらかく立派なわらびがたくさん出ます

集まります。開園は週2回（火・木）10時〜12時まで2時間千円（わらび5キロ程度持ち帰り）。テレビや新聞を見て、荒川地区の人だけでなく新潟市内からもたくさんの方が訪れます。

また、荒島の女性たちの力を借りて、わらびを新潟市内のスーパーへ出荷し、活動運営資金を確保しています。

ボランティアで行っている活動は週に2回。様々な技術を持った人たちが得意なことを活かしながら、わらび園の整備、レンギョウの木植栽、支柱となる杉丸太柵設置作業などに取り組み、荒れ果てていた山に新たな息吹をもたらしています。

4月末頃には、あらかわ総合運動公園から高坪山登山口を越えたところに鮮やかな黄色いレンギョウの花を見ることができ、是非足を運んでください。

編集後記



8月に開催したまちづくり協議会の活動発表会や、今号特集のために行った取材で、各地区のまちづくり協議会がそれぞれ地域性に合わせて様々な活動を行っていることを知ることができました。総会資料や広報誌を見れば、どんな活動をしているか表面的なことは分かりますが、どれだけの人が関わっているか、企画をどのように決めているか、その活動に臨む想いの強さなど、活動の裏側にある部分は分かりません。そして、失敗したことや、上手くいかなかったことを乗り越えた工夫なども分りません。

でも、直接お話を聞いていくと、活動において大切なことや成果と感ぜられるものは、文字に表されていない、表面的には分からない深い部分にあると感じました。

きれいな事だけではられない地域活動の数々。その内容を共有し、刺激し合い、次の活動への活力を得るためにも、まちづくり協議会の方々が情報共有する場の重要性を痛感しました。

〈発行元情報〉

発行日 平成28年11月1日(年3回発行)
取材・編集 特定非営利活動法人 都岐沙羅ハートナースセンター
発行責任 村上市自治振興課
連絡先 0254(53)2111
内線331